2011

平成 23 年9月発行

## 



(第 16号)

# 千葉支部だより

発行者 篠崎仁 編集者 結城純一

#### 岩殿山から猿橋へ



期 日 2011年6月11日(土)

参加者 金子有美子 高橋琢子 竹島正義 杉本正男 三木雄三 柳下忠義 矢野賢二 山口文嗣 吉永英明 吉野聰 谷内剛(反省会に参加)

梅雨前線が活発になり、ところにより大雨・雷 雨注意報も出されていたが、誰からの中止要 請もなく、岩殿山行きは決行された。「俺は晴 れ夫」だと言う三木リーダーの言葉に半信半 疑も「特急あずさ」から見る外は雨。しかし、ト ンネルを抜けるたびに小降りになっているよう な・・・ 9 時過ぎ、大月駅に10名が集まった。登山口の手前で三木さんから岩殿山ができた過程の説明をうける。(約600万年前、まだ南の海で海底火山活動中だった丹沢が、プレートの動きで関東山地とぶつかり、川底が持ち上げられてできた山)。見上げると、一枚岩のような岩山のイメージだが、違いは間もなく判明する。

登山口付近の岩を三木さんが持参したハンマーで叩く。「カーン、カーン」という硬い金属音がした。この岩、約1200万年前の丹沢のマグマが冷えて出来た安山岩だと聞いて「へーっ」と驚く。しばらく登って行くと、山肌はさっきとは違い、砂や石ころが混じっている礫岩に変わる。つるつるに磨かれた丸い石が斜め方向に列を作ったように見えるのは、川底がそのまま持ち上げられたからとか。岩殿山は地殻変動の様子が表面に見える貴重な山なのだ。う~ん!

地質の勉強をしながらも急坂をどんどん高度を上げ、10時20分頂上着。スカイツリーと同じ634mからのながめは、道志の山々が大きく迫り、全然期待しなかったのに富士山の中間部が白黒のコントラストを見せていた。「晴れ夫」恐るべし。また、桂川沿いの崖が6000年前の富士山爆発で流れてきた溶岩流の末端部だと説明をうけた。遠くに見える富士山、桂川、大月の町がふっと過去にタイムスリップした。ここで記念撮影。



11 時、下山開始。晴れていれば稚児落とし方面への周回コースの予定だったが、危険を回避して猿橋方面へのコースに。雨を含んでつややかな緑いっぱいの自然林の中をどんどん下った。登山道の脇にはホタルブクロがふっくらと優しく咲いていた。

猿橋に向かう途中の集落では、真っ黒に熟した桑の実を枝ごと頂く、というハプニングもあり、 私たち女性二人は手を紫にして美味しくいただいた。(雨の日の登山もなかなかだね)

すっかり天気も回復したころ猿橋公園に到着し昼食。ここで休憩の後、きれいに整備された公園を抜け、日本三大奇橋「猿橋」見物へと向かった。猿橋の駅は何度か利用していたが、実際に「猿橋」を見るのは初めてだったのでわくわくした。途中、厚さ9メートルの玄武岩からなる富士山の溶岩流の末端部も間近に見ることができた。

「猿橋」は想像していたよりは規模が小さかっ たが、日本人の叡智が詰まっていた。

こうして雨の大月駅から岩殿山を経由して猿橋まで学ぶことの多い山行でした。三木リーダーはじめ会員のみなさん、楽しい時をありがとうございました。東京駅で美味しくビールをいただいたのは言うまでもありません。

(高橋 琢子)

#### 夏のビールパーティーに参加して ービールは旨い。出会いは楽し一



期 日 参加者

2011年8月20日(土)

竹島正義 高橋正彦 吉永英明 篠崎仁 小疇尚 結城純一 山口文嗣 櫻田直克 小板橋志朗 豊倉さと子 小沢けい子

諏訪吉春 矢野賢二 相原勲 大渡英子 斎藤悦子 (順不同)

8月20日(土)17時からサッポロビール千葉 ビール園で懇親会が企画されましたので、報 告方々会友としてよろしくお願いいたします。

私は恒例の夏の飲み会にはどういうわけか 3回目の参加です。山男は昔からあこがれが あり、心地よさがあります。16名の参加、長い テーブルに4人1鍋と言う感じで飲み、食べ放 題の90分でした。私は光栄にも支部長さんが お隣で少々緊張しましたが、野菜を下に敷い て、上に肉をのせて焼くジンギスカン鍋の共同 作業で打ち解けていきました。1ラウンドはちょ っと焦げ?でも支部長さんの巧みな火加減調 節のお蔭でみな美味しく頂き、ビールのピッチ もあがっていきました。お名前が読めない書け ない小○様(皆さんが先生と呼んでいました。 注:小疇(コアゼ) 先生です) 外国の山のお話 は興味深く、画像があればテレビの中での話 のようでした。また、今は町田にお住まいの櫻 田さん。千葉支部山行の役を担われていらっ しゃったようで、皆さんと楽しく集えるのは事務 局の方のお陰と感謝です。日本山岳会千葉 支部というのだから、メンバーの皆さんは山行 の経験がたくさんあり、会の仲間でコミュニケ ーションを楽しまれているのだろうと思いまし た。

私といえば、高校時代にワンダーフォーゲ ル部に所属して、八ケ岳は22歳ころまでかけ て全部登りました。20歳を記念しての富士登 山、三つ峠の岩登り。谷川岳の沢登りをして 雷にあい地面に伏せて泥だらけになったこ と・・・水の冷たさ、美味しい空気や花、木々の 自然の美しさ、頂上に立った達成感と爽快感 は今でも忘れられない青春です。子育てで忙 しい時もありましたが、最近は再デビューで豊 倉・小沢グループで年1回キャンプやスキー、 山菜ツアーを楽しんでおります。また、今年度 3月末で定年退職、自由の切符を手にして、 あちこちへ旅行三昧。カルチャーとボランチィ アで日々スケジュールいっぱい。しかも、残念 なことに体力が落ち、大きな山は無理かと思 い、写真やお話を伺いたいと思います。が、会 の中で日本山岳会のロゴと名前のワッペンが 貼られた趣味のよい布で作られたペットボトル (小板橋氏製作)入れを頂きましたので、ゆっ くり、のんびりとこのペットボトルを持って出か けたいと思います。

早速来月、17日・18日の日光にいきます。 (大渡 英子)

#### 日本300名山を登る

「日本三百名山」は昭和53年に日本山岳会が選定したものである。ただし、その後深田クラブが選定した「日本二百名山」では山上ヶ岳の代わりに荒沢岳が選ばれている。したがって「百名山」、「二百名山」、「三百名山」と登ってくると301山を登ることになる。私の「百名山」登山は昭和60年に終わり、平成18年に山の本を出版するまでには「二百名山」を登り終えていた。それぞれおよそ20年ずつを要したが、それから5年間で「三百名山」に達した。山が易しくなったことと、自由時間が増えたことによる。

とは言っても、中には道がないような山もあり、単独行が多いので苦労もした。積雪期に登った山も多い。よく「日本三百名山完登」などというが、実際には火山活動、自然保護などの理由による規制があり、完登はできない。また、私の場合、荒沢岳の例もあるので、日本山岳会が昭和52年に「日本三百名山(案)」として発表した山も含めて336山登頂を目指した。



結果として、日本の山というものがよく分かり、ますます山歩きの楽しさが増した。「名山」以外も登っているし、海外の山も経験しているが、森に覆われた日本の山には独特の美しさがある。私にとって最後まで未知の領域として残っていたのが加越・濃飛の山々であったが、ここには奥三方岳、大笠山、金剛堂山(厳冬期に登った)、白木峰などのよい山がたくさんある。ミヤマキリシマが咲く九州の大船山、涌蓋山、四国の三嶺、アルプス前衛峰では笊ヶ岳、アサヨ峰、鍬崎山、北海道ではニセイカウシュッペ、武利岳、武華山などが印象に残っている。

北の山にはとくに心を引かれる。日高にはよい山が多いし、この夏は、三度目になるトムラウシにコースを変えて登った。2年前にガイドを含め18人中8人が低体温症で亡くなるという事故のあった山だが、ツアーによる名山登山とは何だか味気ない。 遭難は避けなければならないが、危険を克服するところにも登山の醍醐味がある。

平成14年に「岳人」が選定した「マイナー12名山」というのがある。原則登山道の無い山が選ばれているが、これなど登ったら楽しいだろうと思う。私はまだ日高のピリカヌプリしか登っていないが、先日、トムラウシの帰りに群別岳に行こうとして果たせなかった。そのうちにスキーで登れたらと考えている。

名山といわれる山のなかには、頂上近くまで車道が通じていたり、ロープウェイで簡単に登れてしまう山がある。私はそういう山は、車道が閉鎖される積雪期に登ったりしていた。また、頂上が自衛隊の基地になっていて無粋なレーダードームが立っていたりする山も結構多い。そういう山も私の名山リストからは外したい。毛勝山、佐武流山、笈ヶ岳に道ができたなどと聞くのは寂しいことだ。

行楽と登山は違う。山に登る心の根底には自然に対する関心がある。100,200,300などという数字に意味があるわけではない。われわれ人間が他の生物とともに生かされているこの地球の 驚異に身をもって接したいというのが、山に登る私の正直な願いなのである。 (川島由夫)

## ●会友の近況報告

## 上高地の思い出

会友の大浦陽子です。「原稿を書け」と鬼デスクのような三木さんに言われ、どうしようかと迷いましたが、7月16、17日と三木さんの案内で出かけた上高地の思い出を書かせてもらいます。

今回の趣旨は「みみわ」で最長老の大野さんの新婚旅行の思いで探しの旅です。「みみわ」は、いつも利用している千葉市内の飲食店で、店のご夫婦は山岳会の会友です。大野さんはそのお店の最長老で、56年前に新婚旅行で上高地に行ったということを知った三木さんが「思い出に連れて行ってやろうよ」と計画。みなさんに呼び掛けて実現しました。

千葉駅から「あずさ」で松本へ。松本電鉄、バスに乗り換え上高地へ。上高地は2度目ですが、 河童橋から眺める穂高連峰と清流・梓川の流れは、いつまで眺めていても見飽きることのない素 晴らしい景色でした。

森の中のすてきな「山研」に初めてお世話になりました。若い管理人のご夫婦がとても親切にしてくれました。やがて夜のお楽しみ。持ち寄った各種のお酒の分量が次々と減り、メーターは上がる一方です。酔うほどに「それで大野さん、どうしたの」と新聞記者の三木さんが大野さんを質問責め。「ずいぶん昔の事よ」とほんのり赤く染まっていました。



翌日の天気も晴天。「山研」の玄関前で記念写真を撮りました。テーブルの右端が私。その隣りが大野さんです。それから明神池に向かいました。私は残念ながら足が不調で、途中から引き返しましたが、みんなで楽しく「嘉門次小屋」でイワナを食べたと聞きました。

帰り際、振り返ると上高地の山々が「また来てね」と言っているようで、今度は秋の紅葉を楽しみにしています。素敵な山の仲間たちに感謝の山旅でした。

(大浦 陽子)

#### 創部60周年で記念講演会 千葉大学

千葉大学山岳部の創部60周年を記念した記念講演会「ブータン・ヒマラヤの自然保護と植生」は、10月15日(土)午前11時30分より千葉大学西千葉キャンパスの「けやき会館」1階大ホールで。

講師は元千葉大学、元東京大学教授で元千葉大学山岳部長の大澤雅彦氏。 JR 総武線西千葉駅下車で徒歩5分。入場無料。



## 秋の「大菩薩を歩く」のお誘い



さわやかな秋の休日、大菩薩嶺を歩きましょう。中央線の塩山駅からロッジ長兵衛まではタクシー。介山荘~大菩薩嶺~丸川峠~丸川分岐の約4時間コースです。

期日 2011年10月23日(日)

集合 JR 塩山駅午前9時 ホームの階段を昇り改札口付近 参加申込 希望者はタクシーの手配があるため10月13日(木)まで三木雄三まで。

#### 紅葉の石尊山から養老渓谷山行のお誘い



晩秋の石尊山から歴史とロマンを秘めた筒森の里を経て、養老渓谷まで約4時間のコースです。

期 日 2011年11月26日(土)

参加希望者は11月17日(木)までに下記担当山口まで。

予定コース 上総亀山駅=七里川温泉ー石尊山ー筒森ー養老渓谷ー養老渓谷駅

徒歩時間 約4時間

担 当 山口 文嗣

携帯電話 090-4812-8447(不在時は留守電に)

集 合 11月26日(土) 久留里線上総亀山駅10時15分

千葉駅発8:21の君津行に乗車すると木更津駅で木更津発

9:14の上総亀山行に乗換られます。

**久留里線内全駅スイカ・パスモ使用できませんので上総亀山** 

までの乗車券を購入してご乗車下さい。

\*参加人数によって上総亀山駅=七里川温泉間の交通手段(徒歩又はバス、又はタクシーの予約)を決めますので、必ずご連絡下さい。

#### 忘年山行·丹沢大山



忘年山行はヤビツ峠から初冬の大山登山を計画しました。天気が良ければ霜柱を踏みつつ富士山を眺めながらの登山です。表参道を下れば大山名物湯豆腐を味わうこともできます。

期 日 2011年12月11日(日)

参加希望者は12月2日(金)までに下記担当山口までご連絡下さい。

予定コース 小田急線秦野駅→(神奈中バス)→ヤビツ峠→イタツミ尾根→大山山頂→ 大山阿夫利神社下社→女坂→大山寺→追分→大山ケーブル駅→(神奈中バ

ス)→小田急線伊勢原駅

担 当 山口 文嗣

集 合 12月11日(日)小田急線秦野駅9時

秦野駅発9:20のバスに乗車予定

新宿発 7:41 急行小田原行  $\rightarrow$  8:50 秦野着 新宿発 7:50 急行小田原行  $\rightarrow$  9:02 秦野着

\*新宿から小田急の「丹沢・大山フリーパスBキップ」(1480円)を買うとお得です。

#### 新年山行・布良大山と安房神社初詣



安房之国一ノ宮、旧官幣大社の安房神社への初詣と房総最南端布良大山探勝の新年山行を 企画いたしますので、是非ご参加下さい。

期 日 2012年1月14日(日)

\*詳細は12月発行の支部だよりに掲載いたしますので、スケジュールの調整をお願いいたします。

## 第五回 千葉・栃木・茨城・三支部合同懇談会開催のお知らせ

三支部合同懇談会は2007年度に首都圏の支部としては初めて、栃木、茨城、千葉の三支部が設立した事を記念し、毎年2月に合同懇談会を開催しております。早いもので、三支部が一巡して来年で第五回目となり、千葉支部の担当となりました。つきましては、下記の日程での開催を予定しており、多くの会員の方のご参加をいただきたく案内申し上げる次第です。

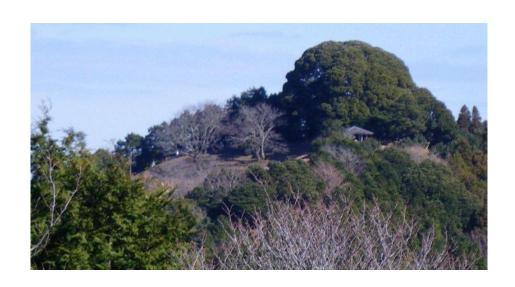
記

- 1 期 日:平成24年2月11日(土)~12日(日)
- 2 会 場:「大房岬少年自然の家」 南房総市富浦町多田良 1212-23 電話 0470-33-4561 FAX 0470-33-4564 E-mail taibusamisaki@chiba-ns-.net
- 3 参加費:10,000円予定

内訳 宿泊費(一泊2食、宴会込み)、12日の昼食、お土産等

※「大房岬少年自然の家」は、南房総国定公園の大房岬内にあり、青い海と緑の木々に囲まれた豊かな自然環境に恵まれています。また、ここから見る夕陽は絶景です。翌日は健康と癒しの森として知られる「館山野鳥の森」を散策する予定です。詳細は12月の会報にてご案内致しますが、今から是非ご予定に入れて頂きたくお願いします。

#### 房総半島の分水嶺踏査への参加のお誘い



東日本大震災のため3月11日以降中断していた房総半島の分水嶺踏査計画を11月5日から再開いたします。

震災直前の3月6日に長狭街道を横断する直前の金束の北、木之根峠まで到達しました。いよいよ長狭街道を横断し、津森山から御殿山を通り残り三分の一の区間に入って行きます。 房総半島の南部になり今までと地形、植生が変わってきて、未知の要素も多いですが、それだけに行ってみての楽しみも多いかと期待しています。

今年もより多くの会員・会友の皆様にご参加いただけるよう、予めスケジュールを支部だよりに載せるよう計画いたしました。こ皆様奮ってご参加いただくようお願いいたします。パズル解きのような房総の山の読図に挑戦してみませんか。

期 日 ①11月5日(土) ②11月13日(日) ③12月18日(日)

④1月8日(日) ⑤1月21(土)

申込締切 ①10月28日(金) ②11月4日(金) ③12月9日(金)

④12月30日(金) ⑤1月13日(金)

予定コース 今回は未知の部分が多いので、予定コースは未定です。

申込先 山口 文嗣

参加者数によって使用交通機関・集合場所・時間等決めます。参加希望者は実施日前週金曜日までにご連絡ください。

#### ● 編集後記

支部 5 周年企画の小笠原自然観察会が台風の影響で中止になり、楽しみにしていた参加者には大変残念だったと思います。無理して行くより安全第一です。先日の台風で紀伊半島の山々が崩れ、大きな被害をもたらしましたが、山に行った時の災害対策を考えておく事も必要だと感じました。山に行く時は天気予報をよく見て出発し、無理な行動はせず危ないと思ったら引き返す勇気も大切なことです。 (結城純一)